

2019年春学期の全時間訓練のための
メッセージアウトライン

主題：
新約正典の中のすばらしいキリスト

メッセージ 13

神の統治の下で生き、わたしたちの魂の牧者であるキリストを経験する

聖書：Ⅰペテロ1:2, 17. 2:21-25. 3:15. 4:12, 15-19. 5:5-8. Ⅱペテロ1:1-4. 3:13

- I. ペテロの第一と第二の手紙は、神の宇宙的な行政についてです：
- A. ペテロの第一の手紙の主題は、神の統治の下にあるクリスチャン生活です。特に神が彼の選びの民を取り扱うことでの、神の統治を見せています——1:2。
 - B. ペテロの第二の手紙の主題は、神聖な備えと神聖な統治です。神がわたしたちを統治しているとき、わたしたちが必要とするものをすべて供給することを見せています——1:1-4. 3:13。
 - C. 神は裁くことによって統治します。神の裁きは彼の統治を遂行するためです——Ⅰペテロ1:17. 4:17：
 - 1. ペテロの第一と第二の手紙は神の統治に関するものであるので、これらの書簡で神と主の裁きが、主要な項目の一つとして繰り返し述べられています——Ⅰペテロ2:23. 4:5-6, 17. Ⅱペテロ2:3-4, 9. 3:7。
 - 2. 各種の裁きを通して、主なる神は全宇宙を一掃し、きよめて、新しい天と新しい地を持ち、彼の義に満ちた新しい宇宙とならせ、彼の喜びとします——13節。
 - D. Ⅰペテロ第1章17節の裁きは、御父が執行する裁きですが、将来の裁きではなく、神が現在、日ごとに、統治上、彼の子供たちを対処する裁きです：
 - 1. 御父はわたしたちを再生して、聖なる家庭を生み出しました。その聖なる家庭とは、聖なる御父と聖なる子供たちです——3, 15, 17節。
 - 2. 聖なる子供たちとして、わたしたちは聖なる生活様式の中を歩くべきです（15-16節）。そうでないと、父なる神は彼の統治において裁き主となり、わたしたちの聖でないことを対処します——4:17. ヘブル12:9-10。
 - E. 神の統治における懲らしめる裁きは、神の家から始まります——Ⅰペテロ4:17：
 - 1. 神は彼の統治に符合しないすべてのものを裁きます。ですから、この時代にわたしたち、神の子供たちは、神の日ごとの裁きの下にいます——1:17。
 - 2. 神は彼の統治上の管理の裁きの中で、烈火のような苦難を用いて信者たちを対処します。この裁きは彼ご自身の家から始まります——4:12, 17。
 - 3. この裁きの目的は、わたしたちが霊の中で神にしたがって生きることです——6節。
- II. ペテロは彼の文書において、クリスチャン生活と神の統治を結合して、クリスチャン生活と神の統治が、対になって並行することを啓示しています——Ⅰペテロ1:17. 2:

- 21, 24. 3:15. 4:17. 5:5-8 :
- A. 三一の神はキリストの中で長い過程を経過して、命を与える霊と成り、わたしたちの中に住みました。これはわたしたちのクリスチャン生活のためです——ヨハネ1:14. 14:17. I コリント15:45後半. 6:17。
- B. それと同時に、三一の神はなおも宇宙の創造主であり、またその支配者です—— I ペテロ4:19。
- C. わたしたちは神から生まれて霊の命を持ち、新創造となりましたが、なおも旧創造の中にあります——ヨハネ1:12-13. 3:3, 5-6. II コリント5:17 :
1. こういうわけで、わたしたちは神の統治上の対処を必要とするのです—— I ペテロ1:17。
 2. クリスチャンの命が成長するために、わたしたちは神の統治の取り扱いを必要とします——2:2. 4:17. II ペテロ1:5-7。
- III. 主イエスは地上にいたとき、絶対に神の統治の下にある人の生活をし、彼に関するすべてのことを、神の統治にゆだねました——ヨハネ6:38. I ペテロ2:21-24 :
- A. 主は彼のすべての辱めと傷を、統治の中で義しく裁く方、義なる神にゆだね続け、ご自身を彼に服従させました。主はこの義なる方に信頼し、彼の統治を承認しました——23節。
- B. 神が人としてのキリストに助言したとき、神との接触を通して、キリストの内なる各部分は神と一であり、そして彼を教えました——詩16:7. イザヤ50:4。
- IV. わたしたちはキリストにある信者、また神の子供たちとして、神の統治の下にあるクリスチャン生活をすべきです——ヨハネ3:15. 1:12-13. I ペテロ4:13-19. 5:6-8 :
- A. ペテロの手紙が啓示しているキリストは、神が苦難を通して執行する統治上の対処を、わたしたちが受け入れることができるようにする方です—— I ペテロ1:6-8. 2:3-4, 19, 21-25. 3:18, 22. 4:1, 15-16. 5:8-9。
- B. わたしたちは、神の統治を執行する力ある御手の下にへりくだっているべきです——6節 :
1. 6節で、「神の力ある御手」は、神の行政を執行する御手を指しており、特に彼の裁きに見られます——1:17. 4:17。
 2. 神の力ある御手の下にへりくだるとは、神によってへりくだらされることです。しかしながら、わたしたちは神の働きと協力し、進んで神の力ある御手の下にへりくだられ、低くされなければなりません——5:6。
- C. わたしたちは自分の魂を、信実な創造主にゆだねるべきです——4:19 :
1. 神はわたしたちの魂を保護することができ、彼の愛する信実な顧みは、彼の統治上の管理の中の公正を伴います。
 2. 神は彼の統治においてわたしたちを裁いているとき、信実に彼の愛の中でわたしたちを顧みています。わたしたちは彼の取り扱いの裁きを受けているとき、自分の魂をわたしたちの創造主の信実な顧みにゆだねるべきです——マタイ10:28. 11:28-29。
- D. キリストの死の中で、わたしたちは罪に死にました。それによってキリストの復活の中で、わたしたちは神の統治の下で義に生きます—— I ペテロ2:24 :

1. 神の統治は義の上に確立されます（詩89:14前半）。神の民が彼の統治の下で生きるように、わたしたちは義なる生活をしなければなりません。
2. 「義に生きる」という表現は、神の統治上の要求を満たすことと関係があります—— I ペテロ2:24 :
 - a. わたしたちが救われたのは、神の統治の下で正しく生きるため、すなわち、彼の統治の義なる要求にふさわしく生きるためです。
 - b. わたしたちはキリストの死の中で、罪から分離され、彼の復活の中で、生かされました。それは、わたしたちがクリスチャン生活の中で、自然に神の統治の下で義に生きるためです——ローマ6:8, 10-11, 18. エペソ2:6. ヨハネ14:19. II テモテ2:11。

V. わたしたちが神の統治の下でクリスチャン生活を生きる時、魂の牧者としてのキリストを経験します—— I ペテロ2:25 :

- A. 霊なるキリストはわたしたちの魂の牧者として、わたしたちの内側の状態を監督し、わたしたちの内なる存在の状況を顧みます :
 1. キリストの有機的な牧養は、おもにわたしたちの魂を顧みることです——詩23:3。
 2. 彼はわたしたちの魂の益を顧みることによって、またわたしたちの内なる存在の状態を監督することによって、わたしたちを牧養します——参照、ヘブル13:17。
 3. このような牧養は、内側の内在的で有機的な慰めです。
- B. わたしたちの魂はとても複雑であるので、わたしたちは、わたしたちの霊の中の命を与える霊であるキリストが、わたしたちを魂の中で牧養し、わたしたちの思い、感情、意志と、わたしたちの問題、必要、傷を顧みることが必要とします——ヨハネ14:16-17. I コリント15:45後半. 6:17 :
 1. キリストはわたしたちの霊なる牧者として、わたしたちを霊の内側から顧みます :
 - a. 彼の牧養はわたしたちの霊から始まり、わたしたちの魂のあらゆる部分に拡大します。
 - b. キリストはわたしたちの霊から魂のすべての部分に届き、優しい、有機的な、行き届いた方法でわたしたちを顧みます。
 2. これは手順を経て究極的に完成された三一の神の内在的な牧養であり、彼は彼の再生された信者たちと結合され、ミングリングされ、合併されます。
- C. キリストはわたしたちの魂の牧者として、わたしたちの魂を回復します——詩23:3前半 :
 1. わたしたちの魂が回復されるとは、わたしたちが復興されるという意味です。
 2. わたしたちの魂を回復することは、新しくすることと造り変えも含んでいます——ローマ12:2. II コリント3:18。
- D. 主はわたしたちの魂の牧者として、わたしたちの魂に安息を与えます——マタイ11:28-30 :
 1. 主は、律法を守ろうと努力し、どんな働きにも成功しようと奮闘している人たちが、安息するために彼へ来るようにと招きます——28節。
 2. この安息は、律法や宗教の下での、または働きや責任の下での労苦と重荷から解放されることだけでなく、完全な平安と全き満足のことを言っています——12:5

- 0。
3. 主のくびきを負うとは、御父のみこころを取ることで—12:50 :
- a. 主は御父のみこころによって拘束され、またそれを顧慮する、そのような生活を生きました—ヨハネ4:34, 5:30, 6:38。
 - b. 彼は御父のみこころに全く満足し、心の中に安息を持っていました。
4. 主のくびきを負うことによって、また彼から学ぶことによって、わたしたちが見いだす安息は、内側の安息、わたしたちの魂のための安息です—マタイ11:29-30。
- E. 主がわたしたちの魂を牧養し、わたしたちの魂を回復するとき、わたしたちはキリストを経験するだけでなく、彼を享受します—ピリピ2:2, 3:1前半 :
- 1. キリストを経験することはおもにわたしたちの霊の中の事柄ですが、キリストを享受することはわたしたちの魂の中の事柄です—1:27, 2:2。
 - 2. もしわたしたちの魂に問題があるなら、キリストを享受することなくキリストを経験するかもしれません。
 - 3. キリストに関するわたしたちの味わいは、おもにわたしたちの魂と共にあります。こういうわけで、キリストを享受するために、わたしたちは主に、魂のあらゆる部分、特にわたしたちの思いを牧養していただく必要があるのです。
 - 4. キリストを十分に享受するために、わたしたちは霊の中においてだけでなく、魂の中においても彼と一である必要があります—1:27, 2:2。